



NPOのSDGs取り組み調査プロジェクト since 2023  
未来へ向けて市民の言葉を重ね合う全国ダイアログリレー in 長野

## 「持続可能な地域づくりのために 学び合い・つながりましょう！」

2025年12月22日(月)、塩尻市の市民交流センターえんぱーくにて、ローカルSDGsについて学び合う交流会を、NPO法人長野県NPOセンターと一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク(以降SDGsジャパンと表記)が主催して開催しました。

集まったのは長野県内で活動する市民活動団体と団体の支援をする中間支援組織(行政担当も含む)、全国からは、SDGsジャパンが2023年度から取り組む「NPOのSDGs取り組み調査プロジェクト」の委員など併せて34名。

このイベントは、同プロジェクト3年目の集大成に向けたもので、調査や対話を続けてきた委員を中心となり、企画したもの。その元となったのは2023年度、2024年度の取り組みの中で見えてきたSDGsゴール達成に向けての提案を盛り込んだ「SDGs虎の巻」です。今回取り上げたのは、地域にあるSDGs達成につながる取り組み=ローカルSDGsの可視化と再評価について。県内にはさまざまな市民が地域の課題を解決すべく活動しているものの、SDGsとつなげて考える機会はあまりないのが現状です。改めて素晴らしい活動とSDGsの結節点を見出し、共通の視点で評価し、広げたり深めたりすることがSDGs達成につながると期待しています。

---

### 1. 「持続可能な地域づくり」事例の共有～イメージの具体化～

#### ◎ 松本市暮らしと環境を考える会 織田ふじ子さん

活動の始まりは「もったいない」でした。長く使って愛着のある食器をゴミにするのは「もったいない・・・」。そんなときに「リサイクルできないのか?」と思い立ったそうです。食器を処分するには埋め立ての処分場が必要です。しかし、松本市では処分場が満杯になって行き場がないという課題が浮上。さらに、食器を作るためには土が必要ですが、その材料の調達も枯渇してしまう可能性があり、調達が課題とわかります。「ならば!!食器を碎いて再び食器にすれば?」という発想で「mottainai」というブランドで再生食器を販売することに。今は、「欲しい人に譲るリサイクル」

と、「再生して販売」を両輪として活動しています。生活者としての小さな思いや気づきが、地域で資源が循環する形にたどり着いた事例でした。

さらに、織田さん曰く、このような活動は実は地域の女性の参画で成り立つ傾向が強く、これからは男性も参加できるような仕掛けが必要だと考えているとのことでした。



## ☺ 清水里山整備協議会 丸山健太さん

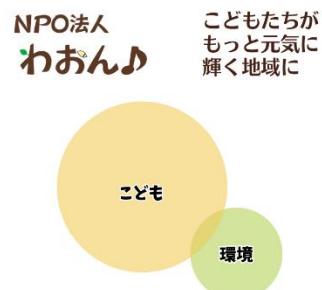


丸山さんは、2012年、安曇野市の里山である清水地区に移住。清水地区は世帯数7軒、人口17人の小さな地区で、その人口のうち9人が丸山さんのご家族。55歳以上の人口が50%のこの地区で、役員のなり手の問題があるのに、解決がなかなか進まない状況を肌で感じていました。

ちょうど丸山さんが住み始めた頃に、同世代が移住してきて、10年後の地域のために何かしたいと模索する中で、地区にある県宝・光久寺薬師堂が覆いかぶさるほどの草だらけになっており、「ここを何とかしよう!!」から始まった里山整備。NPO法人森俱楽部21にも協力してもらいながらのスタートでした。薬師堂でヨガや結婚式、地区子ども会とのコラボイベントなどを企画し、楽しみながら輪を広げていきました。最初は遠目で冷ややかに見ていた地域の人たちも地区外から来て楽しそうにしている丸山さんたちに影響され、距離が近くなり、みんなが集まる温かいコミュニティになっていました。また、一人一人の力を引き出し参加を促進するという視点も大切にしていて、80代のおばあちゃんに参加してもらうために漬物やお茶を準備してもらう役割を作るなど、その地域で暮らす人たちを大切にする視点が温かいです。地域の活動では、いろんな人がかかわる余白があるからこそ化学反応が生まれ、広がっていくと話してもらいました。

## ☺ NPO法人わおん 山田勇さん

2008年「持続可能な松本平創造カンパニーわおん」として発足。①将来につながる地域の環境を守る活動、②その地域の自然を活かして次世代の子どもたちと育ちあう活動、③地域の課題解決をする活動を柱としてスタートしました。後に③が分かれてNPO法人えんのわとなります。



わおんの活動は、自然を感じ、自然の大切さに気付き、自治を学び、行動につながることを主眼にキャンプや遊びを中心とした自然体験プログラム。0歳児から大人まで参加できる多種多様なアプローチが魅力です。

さらに、市への提案事業として子どもたちと一緒に「まち」を作る「こどもしおじり」の活動や子どもリーダー養成講座など多岐にわたります。市と協働で子どもたちが市政に参画する機会の提供もしています。

今地域にあるものを活かす、大切にする、受け継いでいく、将来ある人たちと未来と一緒に創っていく姿勢はSDGs達成につながる可能性がたくさん詰まっています。

最後に、山田さんは「将来に課題を残さないため、子どもたちと一緒に地域の未来を語り合う場がもっと必要になるのでは?」と参加者に問いかかけました。

## ☺ 株式会社わらむ 酒井裕司さん

今回登壇した中では唯一の営利企業ですが、単に金儲けではなく、長く地域で受け継がれてきた藁の文化を継承しながら、農家の負担軽減も実現。担い手不足の地域を成長へと転換させ



ています。さらに、生きづらさを抱える人たちの働く場づくりを掛け合わせる事業を開発しています。

同社は、日本で唯一相撲の土俵を作ることができる会社です。それだけでも価値があると思う方も多いと思いますが、さらに今地域にある資源をいかに有効に循環させながら活用するかという視点を持っていくつもの有名企業と手を結び、商品開発もしています。引きこもりや不登校経験のある人たちが自分で稼いで、社会にも貢献できる人材として育てていくことも同時にしているのです。さらに、新しくフリースクール「われらの学校」まで立ち上げました。

複数の課題を同時解決するアイデアと手法、パートナーシップでそれを実現する手腕は秀逸です。必ずしもSDGsを掲げていなくても持続可能な地域を目指す中で実現していくものなのでしょう。

いずれの事例も、1時間2時間かけて話を聞きたいというものばかりで、たいへん贅沢な時間となりました。

---

## 2. プチレクチャー ~イメージを理念にしてみる~

自然エネルギーネットまつもと 平島安人さんから、SDGsの本質についてのお話。

「そもそもSDGsとは?」「基本のき」を読み解きます。

その上で、今、何もしないでいると社会は、世界はどうなってしまうのか?すべての人にとってのより良い未来を考え、変革する、行動に移すことが大切と話しました。

また、SDGsの根底にある「人権」についても触れ、SDGsが目指すのは「今までのやり方と考え方を根本的に変えて、2030年までに、すべての人が、人間らしく幸せに生きる社会を作ること」そして、それをパートナーシップで実現することが求められていると説明。

短時間で今後のみなさんの活動の進化・深化をSDGs視点で捉えるためのお話が聞けたと思います。



♡ちょっとコーヒーブレイク♡

休憩を少し長めにとって、フェアトレードコーヒーとチョコレートでひと休み&自由に交流。みなさんコーヒーだけでなく名刺交換にも余念がありません。さすが市民活動セクターのみなさんです。良い出会いがあったでしょうか?

---

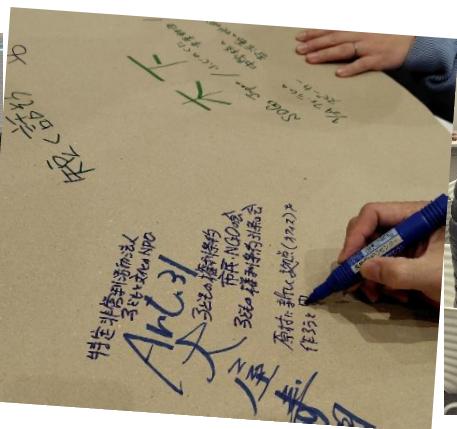
### 3. ワークショップで交流と学び合い～出会いと学び合い～



ファシリテーターは引き続き平島さん。パートナーとしてNPO法人えんのわの大塚佳織さんがグラフィックでみんなの発話を描きとっていきます。

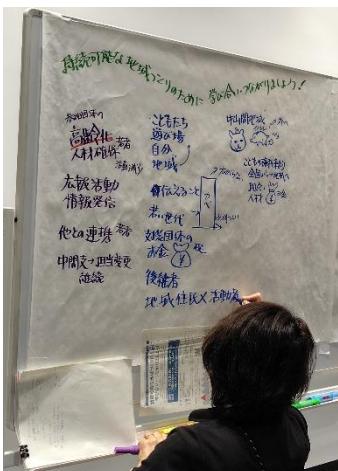
対話を通して、日頃の活動を聞き合い、市民活動をするうえでの課題を共有し、その解決策を考える時間です。

グループに分かれて、段ボールでできた丸いテーブル「えんたくん」を囲み、スタート。えんたくんが初めての方もいたと思いますが、人と人の距離が近づくのがえんたくんの効果です。



まずは、グループの中での自己紹介。市民活動団体、中間支援組織が入り混じってのグループになので、お互いの活動紹介も含めて。また、4つの事例を聞いてどう思ったか？も併せて話してもらいました。

また、活動団体の皆さんからは「活動するうえでの困りごとや課題」を、中間支援の人たちからは「団体の支援をする上での悩みや課題」を出してもらいました。人材不足や資金不足と言った予想通りの課題とともに、次世代への活動継承や、広報力などの課題が出されました。



後半はその課題解決のためのアイデアを全体で出し合いました。「参加しやすい環境づくりをするのは、中間支援組織としてでたきらいいね」「使いやすい助成金補助金を紹介できるといい」「イベントで活動を知ってもらう機会を作れる」「外の人の目で見られるのも大切」などなど。また、N

○法人こどもと文化のN P O Art.31の大屋寿朗さんは「子どもの権利条約の啓発をするワニブタカレンダーを作つて、20 冊以上販売すると販売者にマージンが入るという仕組みを作つてゐる。工夫次第で、活動の中で資金を生む仕組みは作れる」とご自身の取り組みを紹介してくれました。自分たちと同じ子どもの支援をする仲間と手を携えて啓発と資金調達をする活動。○○×○○、S D G s が目指す同時解決。参加者にとっては新たな発見だったのではないでしょうか？

最後は、大塚さんが描いたファシリテーショングラフィックを全員でながめ、この日の気づきを確認しました。



この日一日で何かが解決するわけでも、SDGsのゴール達成に近づくわけでもありません。今後、中間支援組織としてはもちろん、住民としてこの豊かな活動をこれからも持続可能にするために、協力し合いながらこの課題をどうしたら解決できるか。継続的な対話の場が必要です。そのためにも県内の市民活動団体や中間支援団体が同じテーブルに着く機会が作れたらと思います。

ご参加いただきましたみなさまありがとうございました!!

次は、1月29日の全国フォーラムでお会いしましょう。

